

## サファラリエフ・ルスタム研究員（アゼルバイジャン）

はじめまして。私はアゼルバイジャンから来ました、サファラリエフ・ルスタムと申します。私は、アゼルバイジャンにおいて非常事態省（MES）の危機管理センター（CMC）というところで副センター長をしています。私が所属する非常事態省は、2005年に設立されました。その中にある CMC は、国内の他の防災関連機関と連携して、緊急コールセンターとしての機能や、災害統計データの解析など、様々な業務の対応をしています。具体的に申しますと、例えば、緊急時における救助活動のための中心的機能として役割、関係機関へ被害情報などの集約、整理、提供などを行います。また平時においては、防災活動のための、中央および地方政府機関が介する意見交換の場の設置なども行っています。



ここで、前述しました“112 - ホットライン”について補足説明します。この“112 - ホットライン”は、CMC の主要業務の一つで、自然災害、交通事故、火災、水難事故など様々な緊急時において、救助要請を受けて対応する機能を果たしています。このような役割を持つ CMC において、私自身は全部局との調整役として、副センター長の任務を行っています。

地理的には、アゼルバイジャンは広大な面積を有していて、周辺国と比較しても最も災害が多い国の一つです。特に、石油やガス開発に伴う工業の発展により、自然災害から被害を受ける可能性と危険性は年々増加しています。アゼルバイジャン自体は、洪水や地滑りのような多くの自然災害の影響が危惧されています。そこで、防災分野における国際機関との連携、防災活動に対する積極的な取り組みなどが、これまで多く実施されてきました。

日本はこれまで様々な自然災害を経験し、多くの防災対策が講じられています。私は、過去災害を数多く経験した、兵庫県における災害管理システムについて学びたいと思います。今回機会をいただいた、ADRC の客員研究員としまして、日本の自治体間における最新の防災対策（緊急時や予防時などの対応）を学ぶことができる大変貴重な機会だと思います。

最後に、今回このような機会を提供してくれた、ADRC の職員のかたに、深い感謝の意を表したいと思います。